



日本共産党台東区議会議員団

もてぎ たかよし
茂木 孝孔

福祉のまちづくりについて

問 熱中症対策について、⑦総合的な対策を推進するための体制を強化すべきではないか。④所信表明で、80歳以上の高齢者について所在確認を行うと発言されたが、対象を高齢者全体に拡大し、あわせてエアコンの設置状況を調査すべきではないか。⑨低所得の高齢者に対し、エアコンの設置費を助成してはどうか。④エアコンが設置できない住居に住む生活保護受給者に対し、家主へ働きかけるなどの支援を行うべきではないか。**答** ⑦危機管理室を中心に関係所管が協議し、熱中症予防対策を強化してきました。④高齢者の所在確認は、当面80歳以上の方を対象に調査します。エアコンの設置状況は、総務省が定期的に調査を実施しているため、区で別途実施することは考えていません。⑨国が、生活保護世帯に対する冷房費の上乗せ支給を検討する意向を示しているので、この動きを見守ります。④契約当事者間の問題のため、行政が個々に関与することは難しいと考えます。**問** 高齢者地域見守りネットワークについて、現状をどう認識し、さらなる強化のためには何が必要と考えているか。**答** 高齢者が住みなれた地域で安心して暮らしていくため

に非常に重要な事業であると認識しています。事業を再点検し、その結果を踏まえ、一人暮らしの高齢者等の見守り体制を充実するなど、さらにきめ細かい対応をしていきます。

谷中のまちづくりについて

問 谷中の住環境を守るため、都市計画道路の見直しを関係機関に申し入れるべきではないか。**答** 20年度に都区検討会が設置され、課題等を整理してきました。計画の見直しについて、引き続き検討します。**問** 豪雨による崖崩れ等の被害が各地で続発している。崖の調査を早急に行い、安全対策を講じるべきではないか。**答** これまで、崖や擁壁の調査を行ってきました。その結果を所有者に知らせ、危険と思われるものは災害防止策を講じるよう要請し、改善が進んでいます。また、大雨の時は見回りを行い、安全確保に努めています。**問** 谷中霊園は、緑の集積地として貴重な場所である。樹木を増やし、四季折々の花が咲くようにしたらどうか。**答** 現在、都が谷中霊園再生事業を実施し、緑資源の保全と充実を図るとしています。区としても、緑を増やすよう積極的に働きかけ、四季折々の花を咲かせることについても申し入れていきます。**問** 初音の森を活かし、蛍の飛び交う谷中の再現を検討してはどうか。**答** 初音の森は地域の皆様と検討を重ね、災害時の活動拠点として整備したものですので、ご理解ください。



いぶきの会

あずま く に こ
東 久仁子

特別養護老人ホームの計画的整備で高齢者の居住の確保を

問 高齢者の居住の確保と住宅の供給促進について、どのような方針と計画のもとで取り組むのか。**答** シルバーピアについては、長期総合計画後期計画において、今後20戸程度を整備し、合計で275戸を供給していく方針です。国や東京都の施策や支援のメニューを積極的に活用し、住宅施策と福祉施策の連携のもと、取り組んでいきます。**問** 特別養護老人ホームの建設・改修について、大規模区有地などの活用を含め、目標・計画等を伺う。**答** 既存施設の老朽化の進行などを考慮し

ながら、整備の手法を含め、検討しているところです。今後は、既存施設の改修とともに、新たな特別養護老人ホームの整備について、大規模区有地等の活用も含め、適地を確保し、対応していきます。

訪問事業の強化で要保護児童と子育て家庭の支援を

問 乳児家庭全戸訪問事業は、来年度から実施するのか。また、養育支援訪問事業との連携をどのように進めていくのか。**答** 日本堤子ども家庭支援センターでは、今年度から養育支援訪問事業を実施し、専門職員による指導・助言などを行っています。保健所では、母子訪問指導として、母子の健康状態や養育環境を確認するとともに、安心して子育てができるよう支援を行い、家庭の状況に応じて養育支援訪問事業につなげています。現在、母子訪問指導を拡充して、乳児家庭全戸訪問事業として実施できるよう準備を進めています。この中で、養育支援訪問事業との連携の強化についても、検討していきます。



台東区議会自由民主党

いしづか たけし
石 塚 猛

旧東京北部小包集中局跡地利用について

問 この貴重な大規模用地の将来の活用について、観光立区を標榜する区として、北部地域の活性化につながるような思い切ったビジョンを、できるだけ早く明示すべきと考えるが、所見を伺う。**答** 旧東京北部小包集中局跡地は、北部地域のみならず、区の全体的なまちづくりにおいても貴重な大規模用地です。現在は、暫定活用として自転車保管所、観光バス駐車場の整備を進めています。将来の活用については、区の諸計画はもとより、東京スカイツリーの開業後の状況や民間活力の導入の可能性など、様々な観点から検討する必要があります。全庁的な組織で、活用案の検討を進めます。また、来年度からは、立地条件の分析や民間事業者の意向を調査するなど、可能な限り早期に活用計画を策定し、さらなる区の発展に繋げたいと考えています。

子育て支援について

問 本区には、子ども家庭支援センターが3カ所設置され、子育て家庭向けの事業や子育てに関する総合相談を行うなど、子育て世帯にとって必要な施設として機能している。しかし、子ども家庭支援センターや他の子育て関連施設を全く利用しない家庭にこそ、何らかの支援が必要であると考えられるが、所見を伺う。**答** 子育て支援を必要としながら、サービスを知らないなどの理由で支援を受けていない家庭を発見し、必要な支援を行っていくことは、児童の健全育成にとって重要であると考えています。平成21年1月に実施した次世代育成支援に関するニーズ調査では、子育ての相談をする人がいないという保護者が、就学前の児童を持つ家庭では14%、ゼロ歳児を持つ家庭では約30%という結果が出ています。次世代育成支援地域行動計画に位置づけられている乳児家庭全戸訪問事業を展開して、ゼロ歳児家庭の相談に応じ、支援が必要な家庭に継続して支援を行っていきたいと考えています。さらに、子ども家庭支援センターや相談機関の周知についても充実していきます。



台東区議会区民クラブ

きのした えつ き
木下 悦希

ドッグランについて

問 現在、ドッグランについては、公園課や保健所が対応しているが、ドッグランは新たなコミュニティづくりの場であると考えられる。その点を勘案すると、ドッグランへの対応は、公園課や保健所だけでなく、全庁的に取り組む必要があると考えるが、どうか。**答** ペットを通じて人と人との心のつながりが深まり、新しいコミュニティが広がっていくことは大変喜ばしいことです。ドッグランについては、このような視点を持って、今後、全庁的な取り組みにより、検討を重ねていきます。**問** 昨年、「ペットコミュニティエリア」の試行が行われた。運営面や管理面に問題があることは理解しているが、新たなコミュニティづくりの一つの手段として、即急に開設すべきと考えるが、どうか。**答** 昨年10月にペットコミュニティエリアを試行した結果、利用者による自主的な管理のあり方や利用条件の整備の検討など、公園におけるペットコミュニティエリアの設置については、解決すべき課題が多い

ものと認識しています。しかし、新しい形のコミュニティづくりの一つとして、ペットコミュニティエリアの設置は大変意義のあるものと考えており、今後、地域における運営・協力体制の機運を醸成するとともに、新たなコミュニティの創出に寄与するペットコミュニティエリアの設置を検討していきます。

三ノ輪の横断歩道橋の早期エレベーター設置について

問 昨年の第3回定例会の一般質問において、「三ノ輪交差点歩道橋のあり方については、国と話し合いを行っており、エレベーターの設置に向け、さらに調整を図っていく」との答弁があったが、その後の進捗状況について伺う。**答** 区では、交通バリアフリー基本構想に基づき、道路などのバリアフリー化を推進しています。三ノ輪交差点の横断歩道橋は、基本構想の特定経路である昭和通りと国際通りを結ぶものであり、エレベーターの設置は、地域の重要な課題であると認識しています。これまで、国に対し、地域の皆様の要望を伝えるとともに、早期の設置を求めて調整を行ってきました。現在、国では、エレベーターを設置する方向で、予算化に向け、内部で調整しているところです。引き続き、早い時期に設置されるよう働きかけ、地域の皆様の利便性の向上を図っていきます。